

令和7年第2回 高千穂町議会定例会

一般質問通告内容集約書

高千穂町議会事務局

【6名11件】

質問日	件数	質問者	件名	頁
6月16日 (月) 10:00~	2 件	工藤 博志 議員	1. 中山間地域等直接支払制度について 2. 高齢者支援について	1
	1 件	藤田 利廣 議員	1. 道路草刈作業について	3
	1 件	板倉 哲男 議員	1. 子どもたちの地域参画について	4
	1 件	磯貝 助夫 議員	1. 道の駅移転について	7
6月17日 (火) 10:00~	5 件	田中 義了 議員	1. 高千穂町内における町民、観光客、町役場職員等に 係わる猛暑対策について 2. 町営住宅などの現状及び建物の老朽化について 3. 天岩戸の湯の経営状態及び今後の利用対策について 4. ふるさと納税の増収対策について 5. 九州中央道高千穂雲海橋道路のトンネル工事に 関する地下水脈への影響について	8
	1 件	佐藤 さつき議員	1. 老朽化している教育・福祉関連施設の今後について	10

順	質問者	件名	質問相手
1	工藤博志 議員	1. 中山間地域等直接支払制度について	町長
質問の要旨			
<p>平成12年度から実施されているこの制度は令和7年度から6期目となります。</p> <p>これは、農業生産条件の不利を補正することで将来に向けて農業生産活動の継続を支援する事業であります。</p> <p>これまでの5期は、それぞれの集落協定がそれぞれの条件で個々の集落協定を運営していました。その間には農道の生コン舗装・機械協同利用組合の立ち上げ・集落営農組合の立ち上げなどにより、協同活動意識は強く強固になると共に、有害獣対策効果や耕作放棄地の緩和と地域の農業生産の向上・活性化に繋がっていることは誰もが認めるところであります。</p> <p>今後は、担い手不足の解消や農地賃貸権の促進・国土保全機能の取り組み、更に集落協定の統合や事務負担の軽減を目的とした事務処理の一元化などが交付の要件のようです。</p> <p>農業生産者の高齢化は更に進展する中、農業生産活動をどうやって継続していくのかがこれからの課題だろうと考えます。</p> <p>以上を踏まえ、6期目の対策について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの25年間で集落営農組織や機械協同利用組合の設置数は。 2 これまでの25年間で農業法人化数は。 3 交付対象農用地は農振区域・地域計画区域となりますが、どのような制限がかかるのか伺います。 4 ネットワーク化（活動の連携）については、有害鳥獣対策で隣接の集落協定との電気柵の協同設置など可能か。 他にどのようなことを考えておられるか伺います。 5 スマート農業加算では自走式草刈機やドローンの導入とありますが、すでに取り組んでいても可能か。 6 スマート農業の実施状況と今後の推進について伺います。 7 農泊事業との連携が可能ですが、本町の農泊事業者数は。 今後の推進方針を伺います。 8 交付対象農地は畦畔を含んでいますが、畦畔の草刈は高齢者には重労働であり、危険が伴います。大型機械（パワーショベル）によるデモンストレーションがありました。導入には単独では負担が大きいと思われます。補助事業の対策は出来ないか伺います。 9 農地の集約面積と売買状況など件数について伺います。 10 これまで直接支払い交付金は年度末に一括交付であります。集落協定の運営上資金のやりくりで苦慮されていることから前期・後期の交付を要望した経緯がありますが、今後の交付方針を伺います。 11 統合や事務一元化の推進の方針を伺います。 <p>以上、多岐項目であります。町長に伺います。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
1	工藤博志 議員	2. 高齢者支援について	町長
質問の要旨			
<p>高齢により運転免許証の返納者が増加しています。宮崎県警察の情報によりますと、西臼杵管内では過去3年間で運転免許証の自主返納者は延べ318人で、内本町においては令和4年69人、5年61人、6年70人の状況にあります。</p> <p>この制度は平成10年4月の道路交通法の改正により公布され、高齢者の運転事故を減らすための施策であり、加齢による運転技術の衰えや運転の必要性がなくなった場合に自主的に免許証を返納できる制度です。</p> <p>運転免許証の返納者にはこれまで特典がありますが、最近ではまだまだ運転出来るのではと思われる人も積極的に返納される傾向にあります。これも全国的に高齢者の人身事故や運転誤りが多発しており、家族や被害者に迷惑をかけると共に補償問題など苦慮されているという実情があります。</p> <p>自主返納をされた方々は、通院や買い物に非常に便利が悪くなった、もう1回免許更新しとけばよかったなどを言われます。</p> <p>現在、運転免許返納者にはタクシー券やふれあいバス乗車券などの支給がありますが、一時的なものであり継続性はありません。</p> <p>全国の自治体では、運転免許証を返納されても自立した生活ができるように、シニアカーを購入する際に補助金を支給する例があります。本町のような交通の条件不利地域ではシニアカーの活用は移動手段として有効策と考えます。</p> <p>シニアカーは道路交通法上歩行者として扱われます。このため歩道を走行し、運転免許返納者は交通安全ルールやマナーにも詳しく、事故発生率は少ないようです。このことから、まだまだ健康だからスピード感のないシニアカーであれば運転して自由に行動してみたいと思われている方に老後を心豊かに過ごして頂くため、シニアカー購入補助金制度を創設してはと考えますが、町長に伺います。</p> <p>電動車いすやシニアカーは、介護保険で利用可能となっています。適用条件は要介護2～5、または歩行が困難な要介護1・要支援1の方が対象ですが、本町ではどのように周知しているのか伺います。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
2	藤田利廣 議員	1. 道路草刈作業について	町長
質問の要旨			
<p>町道の草刈り作業（道路愛護作業）を年間に2回、春6月と9月に各地区で実施されていますが、高齢化により、草刈作業が困難になっています。</p> <p>満80歳以上の参加者が来られても危ない事がありますが、地区の役目を果たそうと参加されます。地区でも、参加していただいておりますが、何をさせてよいのか戸惑います。</p> <p>このように、草刈作業が、各地区で問題を抱えています。</p> <p>業者に依頼してある地区もあると聞いています。町はメーターあたり町道、林道共に35円ですが、広域農道は50円です。</p> <p>町民は、高齢社会の苦しい中で作業をしています。以前は失業対策事業で草刈作業などをされていましたが、今はありません。業者に依頼しても、業者も事業が出来ないのではないかと考えられます。町道を管理される地区の中で元気にまだまだ働く方々がおられると思います。失業対策事業のような取り組みをすべきではないでしょうか。また、草刈作業の価格（単価）の見直し、値上げをすべきと考えられます。</p> <p>そこで町長に伺います。</p> <p>① 草刈作業の単価を上げることは出来ないか。 ② 失業対策事業のような取り組みは出来ないか。 ③ 草刈作業が出来ない地区はどうするのか。 ④ 高齢者社会で草刈作業の対策案はないか。</p> <p>以上4点を伺います。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
3	板倉哲男 議員	1. 子どもたちの地域参画について	町長 教育長
質問の要旨			
<p>現在、本町を含め日本の地方では、少子化および人口減少が進行しています。特に若年層の都市部への流出は深刻な課題であり、進学などで地元を離れた若者の多くが、地元に戻らない傾向にあります。</p> <p>若者が地元に戻ってくるには、子どもの頃から地域との関わりを持ち、地元への愛着や誇りを育む取り組みが必要と考えます。子どもたちが地域社会や行政と関わる体験を積むことで、自らが地域の一員であるという意識が芽生えます。</p> <p>さらに、「まちは自分たちでつくるもの」という主体的な意識を持つことによって、自分の力が地域の未来に影響を与えるという実感が得られます。こうした経験は、地元を「ただの故郷」ではなく、「自分が関わり、支え、育てていく場所」として捉えるきっかけとなり、将来的に地元に戻って暮らしたいという思いを育てる原動力になると考えます。</p> <p>中学生はもちろん、小学生の高学年にもなれば、知識や経験は大人に劣るとはいえ、大人と同レベルの思考力を持っています。また、子どもたちには本質を見抜く直感や、柔軟で自由な発想、価値観にとらわれない率直な意見を持っています。そして何より、町の重要な課題に関わる体験こそが、地域への愛着につながると思います。</p> <p>具体的には、次のような取り組みが考えられます。</p> <p>(1) 高千穂中学校移転新築について</p> <p>現在、高千穂中学校の移転新築の検討が進められております。移転新築検討委員会が移転場所として高千穂温泉跡地を選定したものの、町内4団体から高校敷地内への移転の再検討を求める要望書が提出されたこともあり、今後、18歳以上の全町民にアンケート調査を実施するという事です。</p> <p>18歳以上の全町民にアンケートを実施し、広く意見を募ることは、良いことだと考えますが、そのうえで、18歳以上のアンケートとは別の形でもよいので、18歳未満の子どもたちの意見も聞いてはどうかと思います。</p> <p>(2) イベントにおける出店について</p> <p>本町の一大イベントと言えば夏のサルタフェスタです。サルタフェスタでは、多くのお店が並ぶわけですが、その中に、子どもたちが出店するブースを設けてはいかがでしょうか。</p> <p>子どもたちが自ら企画し店を運営することで、「自分もこのまちの一員なんだ」という気持ちが育まれます。また、出店という実社会に近い環境で、主体的に行動する力や他者と協力する力を育むことができます。そして自然な形で地域の大人や来場者と関わることもできます。</p> <p>こうした学びは、学校では決してできない学びであり、人口が少ない町だからこそ、実現しやすい取り組みだと思えます。</p> <p style="text-align: center;">〈次頁に続く〉</p>			

(3) 総合的な学習の時間に対する予算配分

本町では各校において、総合的な学習の時間を活用した地域学習が行われています。高千穂中学校の「高千穂町づくり会議」や高千穂小学校の「町づくりミーティング」などで、子どもたちが学習した成果を発表しますが、過去には子どもたちが考えた新商品が実際に販売された事例もあります。しかし、実現する事例は比較的少なく、よいアイデアであるものの、お金がないために何もできない、という場面も多々あるように思います。

そこで、子どもたちが自らの企画で地域課題に向け行動できるよう、子どもたちが使えるお金を予算化してはいかがでしょうか。例えば、中学生1人あたり1万円の予算を割り当て、数名で構成したグループで、子どもたち自身が事業を企画し実行してもらうというものです。

この取り組みでは、「やりたいこと」ではなく「できること」を考えるとという実現可能性を考慮した企画力を育むことができます。さらに、限られた予算の中で、自分たちのまちに必要な取り組みが何であるかを判断する力を養うことができます。

町が子どもたちに、まちづくりの一端を任せることは、まちの将来を担う人材育成の観点から、必要なことだと思います。

(4) 子ども議会について

主権者教育の一環として、子ども議会に取り組む自治体があります。子ども議会とは、子どもたちが町政や地域の課題について自ら意見を持ち、議会と同様の形式で、提言や討議を行うものであり、主権者としての意識を育む取り組みです。行政や議会への関心を高めるだけでなく、地域課題に対する当事者意識の醸成、さらには、「自分たちのまちの未来は自分たちでつくる」という実感を育むことができます。

現在も高千穂中学校の「高千穂町づくり会議」や高千穂小学校の「町づくりミーティング」など、意見発表型の取り組みはなされています。現状の取り組みをさらに進めて、町長をはじめとする町執行部との対話、質問、再質問まで含めた子ども議会に取り組むことで、より深い学びと参画意識を育むことができると思います。

また、いいアイデアだけでは解決できない現実（予算、人員、制度など）に触れることで、実現可能性を考慮した提案力を育むこともできます。さらに、子ども議会に取り組むことは、参加する子どもだけでなく、子どもの保護者の当事者意識を高めることにもつながります。

本町においても、子ども議会に取り組んではどうかと思います。

(5) 子ども司書について

図書館は、まちの知の拠点であり、まちの多様な人が集まる空間です。そして、図書館に勤める司書は、まちの知的インフラを支える要です。その司書の役割を、子どもにも担ってもらう、子ども司書に取り組む自治体があります。

子ども司書とは、図書館や学校図書室を拠点に、図書の紹介、展示企画、読み聞かせ活動、利用者案内などに子ども自身が主体的に関わる取り組みです。具体的な活動は、子どもたちが本のディスプレイを考えたり、本を紹介するポップを作成したり、お話し会や読み聞かせを実施したりと、地域により様々にあるようです。

子ども司書は、まちの多くの人に対し、本を読むきっかけをつくってくれます。特に、子どもたちにとっては、友達が読んでいれば、自分も読みたくなるということはいくあることであり、子どもたちの読書を推進するには、子どもたちの力を借りるのが良いのだそうです。

〈次頁に続く〉

こども司書の活動を通じて、子どもたちは自分の考えを言葉で伝える力や、人と関わる力、公共の場で役割を果たす責任感を育むことができます。さらには、地域人材の育成にもつながります。

本町においても、こども司書に取り組んではどうかと思います。

(6) 子ども記者について

子ども記者とは、子どもたちが実際に町の出来事や人々取材し、自らの言葉で発信する取り組みです。子ども記者に取り組む自治体の中には、実際の広報誌に、子ども記者が取材した内容を掲載したり、さらには、子ども版の広報誌を作成しているところもあるようです。

子ども記者の取り組みは、子どもたちに地域の魅力や課題に目を向けるきっかけとなり、地域を自分事としてとらえることにつながり、地域人材の育成にもつながります。

本町における情報発信を見ると、広報誌の他にも、町公式 SNS や、たかちほまびいなどがあります。これらの情報発信について、子どもたちが子ども記者として参画する仕組みをつくってはいかがでしょうか。

以上を踏まえ、町長および教育長にお尋ねします。

①高千穂中学校の移転について、18歳未満の子どもたちについても、何らかの形で意見を聞いてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

②サルタフェスタなどの町内のイベントにおいて、子どもたちが企画し運営するブースを設けてはいかがでしょうか。

③子どもたちに予算を与え、自ら事業を企画し、実行してもらい取り組みをしてはいかがでしょうか。

④主権者教育推進のため、また、地域課題に関する地域学習をさらに深めるために、こども議会に取り組んではいかがでしょうか。

⑤読書推進のため、さらには人材の育成のために、こども司書に取り組んではいかがでしょうか。

⑥町の情報発信について、子どもたちが参画する、こども記者に取り組んではいかがでしょうか。

順	質問者	件名	質問相手
4	磯貝助夫 議員	1. 道の駅移転について	町長
質問の要旨			
<p>令和7年5月8日の新聞報道で、「九州中央自動車道の開通を見据え、高千穂町は、国道218号線沿いにある道の駅高千穂の移転整備を検討している。開通後の町経済の活性化を図ることを目的としたもので、観光客から見て利便性の良い高千穂インターチェンジ（IC）付近での整備を想定。町内7団体は5月7日、早期の移転先決定などを求め、町と町議会に要望書を提出した。」と掲載されていました。</p> <p>その後、5月9日、要望書の内容について町長から議会に説明があり、その中に候補地として総合運動公園内の一部地域があげられていることも聞きました。</p> <p>また、5月30日に建設課の説明と現地視察を行い、インターチェンジ予定地周辺の状況を確認し、残土の受け入れ候補地や、インターチェンジ完成に合わせた道の駅の完成を目指す意向であることも説明がありました。</p> <p>町としては、今後、関係機関との協議を重ね基本構想を進める中で、残土受け入れ先や、道の駅建設先を決定していくものと思います。</p> <p>九州中央道全線供用開始まで20年、または30年先の話かもしれないが、着々と進む工事に並行して本町の関連事業も推進していく必要があると考えます。</p> <p>上記の内容を踏まえ、町長に伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 残土受け入れ先の候補地と、埋め立てる土地活用の構想は。 2 総合運動公園内への道の駅移転をどう思われているか。 3 基本構想スケジュールにある検討委員会の役割は。 			

順	質問者	件名	質問相手
5	田中義了 議員	1. 高千穂町内における町民、観光客、町役場職員等に係わる 猛暑対策について	町長
質問の要旨			
<p>① 6月1日熱中症対策を罰則付きで事業者に義務付ける改正労働安全衛生規則が施行されたが、町長は町役場職員にどのような対策を講じるのか、また、町民、観光客等に対してどのように熱中症警戒警報を呼びかけるのか。</p> <p>② 町の公共施設、特に小中学校における猛暑対策はどうしているのか。</p> <p>③ 市街地を歩いている観光客等に対してクーリングホーム、ミストなどの暑さ対策を考えているのか、また、市街地の空き店舗対策として冷房設備付きの「おもてなし茶屋」を設けてサービスしたらどうか。</p> <p>④ 高齢者、障害者などの室内クーラー設置状況の確認とその設置費用の一部補助は考えられないか、町長の考えを伺いたい。</p>			
順	質問者	件名	質問相手
5	田中義了 議員	2. 町営住宅などの現状及び建物の老朽化について	町長
質問の要旨			
<p>① 町営住宅、教職員住宅及び医師住宅の戸数・空き戸数の現状を把握したい。</p> <p>② 町営住宅における収入超過者は何人か。その対処は。</p> <p>③ 町営住宅における減免措置者は何人か。</p> <p>④ 町営住宅などの建築年次に昭和時代のものであるがその対策は。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
5	田中義了 議員	3. 天岩戸の湯の経営状態及び今後の利用対策について	町長
質問の要旨			
<p>① 過去3年間の収支決算及び利用者数はどのように推移しているのか。</p> <p>② 天岩戸の湯となった経緯及び入湯税を徴収しなくなったその時期は。</p> <p>③ 温泉の泉質調査はされているのか。</p>			
順	質問者	件名	質問相手
5	田中義了 議員	4. ふるさと納税の増収対策について	町長
質問の要旨			
<p>3月の一般質問に対して町長は増収対策について回答されたが、その具体策は。</p>			
順	質問者	件名	質問相手
5	田中義了 議員	5. 九州中央道高千穂雲海橋道路のトンネル工事に関する地下水脈への影響について	町長
質問の要旨			
<p>① 昭和40年後半、神代川河川工事の影響のせいか、天真名井の泉が枯れ、御塩井の玉垂れの滝の水量が細り、真名井の滝が5本から1本になったが、町長はどう考えるか。</p> <p>② 町上水道施設の第2水源の設置時期及びその理由を伺いたい。</p> <p>③ 伝聞によると、高千穂温泉の源泉探りで、その周辺を試掘すると、その水脈に影響を及ぼすからと中止したとのことだったが、事実はどうなのか。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
6	佐藤さつき 議員	1. 老朽化している教育・福祉関連施設の今後について	町長
質問の要旨			
<p>令和3年に高千穂の湯が閉館後、跡地利用の提案を兼ねて、老朽化している福祉的施設、子育て関連施設、教育施設の今後の対策について何度か質問を行いましたが、最終的には街中に複合的に計画を考えていくとの答弁でした。</p> <p>老朽化している施設の現状を踏まえ、次の点から町長に伺います。</p> <p>1 老人福祉館は高齢者が頻繁に集い、福祉事業の中心を担っており、福祉避難所としても指定されていますが、築50年を経過し老朽化が顕著に進んでいます。早急な対策が必要ということは理解されていると思いますが、計画はどこまで進んでいるのか町長の考えを伺います。</p> <p>2 子育て支援センターも築年数50年を経過し老朽化が進んでおり、耐震化もない状況です。支援センターで伺ったところ、耐震化施設でもないにもかかわらず、夜間に地震が起きた際、次の日に日中子供と2人で過ごすのが不安な親子が支援センターに避難してきたとのことでした。子育て環境の整備も人口減少に歯止めをかける重要な点であると町長も以前から認識されていらっしゃると思います。複合化が進まないことには何も解決しない現状、これ以上何も進まないのであれば早急な対策が必要です。単独で考えてはいかがでしょうか。</p> <p>3 旧高千穂の湯の施設は、福祉関連施設の移転先として何度も議会の一般質問で伺いましたが、再利用は難しいとのことで固定した利用もされず、中学校の建設地ということになり方向性が決まりました。しかし進んでいません。結果、福祉的環境も教育環境も整備が遅れています。</p> <p>旧温泉施設の再利用をせず中学校建設用地とされたことは、固い決意のもとだと思えますが、町長の考えを伺います。</p>			